

「行ってみたい夕日絶景ランキング」 父母ヶ浜 全国1位!

大手旅行情報誌じゃらんが行った、日本国内で見ることが出来る「行ってみたい夕日絶景ランキング」で父母ヶ浜が1位を獲得しました。風のない干潮時の潮だまりが天空を映し出すことから「日本のウユニ塩湖」と称され、SNSで話題となっています。この海岸は、ボランティア団体「ちちぶの会」が20年以上清掃を行って守り抜いてきた海岸です。その地元の人たちの誇りである美しい海岸が、今回夕日絶景の全国1位に選ばれました。

提供：三豊市観光交流局

▲潮だまりに天空を映し出す父母ヶ浜の様子

▼ブドウの収穫方法を生産者から教わります



▲とれたてブドウ、いただきます♪



桑山小学校

▶収穫の様子



比地大
小学校



▲上手に収穫できました

みとよのブドウを収穫!

9/5 市内ブドウ園地

比地大小学校の5年生10人と、桑山小学校の6年生20人がブドウの収穫を体験。この日児童たちが収穫したシャインマスカットは南部学校給食センターに運ばれ、翌日の給食で提供されました。貴重な体験に子どもたちの笑顔があふれました。



音楽を間近で感じる1日

9/2 浪打八幡宮(詫間町)

第6回となる浪打の森ジャズフェスティバルが開催されました。全11団体が出演し、生演奏を披露。来場者はノリの良いジャズやソウルのリズムに引き込まれ、秋の始まりを感じました。

市民一人ひとりが人権を考えよう

8/21 マリンウェーブ

桜井・法貴グローバル教育研究所代表の桜井高志先生を講師に迎え、人権・同和問題講演会が行われました。日本と西洋の人権の考え方の違いに、来場者は興味深く耳を傾けていました。



◀講師の桜井高志先生



三豊をAIの研究開発・ 人材育成拠点に

8/20 三豊市役所

市と東京大学大学院松尾研究室の二者ならびに香川高専を加えた三者で、人工知能(AI)技術による地域活性化のための連携協力について合意書の締結を行いました。山下市長は、「三豊に来ればAIの実証実験の場があることを広く発信し、興味のある人にどんどん地域に入ってきてもらいたい。人・農業・企業に還元していきたい」と今後の抱負を話しました。

また、香川高専詫間キャンパスで行った市主催のAIサマースクールには、高校生から大学院生まで35人が参加。人工知能の基礎を学ぶ特別なカリキュラムで講義が進められました。受講者は、最新の人工知能の話に興味深く聞き入り、プログラミング演習を通して理解を深めました。

東京大学大学院工学系研究科松尾研究室との合意書締結



▲左から、東京大学大学院松尾豊特任准教授、山下市長、香川高専安藤芳雄校長

8/24・25
AIサマースクール



▲松尾研究室の皆さんが講師を務めました

▲プログラミング演習では、機械学習やディープラーニングを学びました

みとよHOT ほっとNEWS

デイリー版ほっとニュースは
市ホームページで [三豊市](#) [検索](#)



▲大小島真木さんの作品。天井にも飾られた大きな鯨を見上げるのは、作品の制作を支えてきた粟島が〜の皆さん



若手芸術家が活動の集大成を展示

8/19~26 日々の英学校

5月から粟島に滞在し、島民とともに作品を制作していた作家による作品展が開催されました。作品は大小島真木さんの「鯨群の詩」とマユール・ワイエダさんの「文化の糸」。アーティスト自らが創作意図や作品に込めた思いを解説し、訪れた人たちは興味深く作品に目を向けました。また、8月21日には校長である日比野克彦さん出席のもと、粟島芸術家村退村式が行われ、2人は島民の皆さんに作品制作に協力してくれたことへの感謝を述べました。



▲マユール・ワイエダさんの作品。天井から無数に下りている糸の隙間をぬって作品鑑賞

8/21
退村式

